



社会福祉法人友愛学園
広報誌 VOL25

発行日 平成28年3月10日
 発行人 社会福祉法人 友愛学園
 〒198-0001 東京都青梅市成木2-107
 電話 0428-74-5453
 FAX 0428-74-6906
<http://www.yuaigakuen.or.jp/>

新年度の課題

理事長 柘植 吉治

新年度を迎える準備の時期になりますが、重要かつ重大な意味を含む課題に取り組まなければなりません。それは、一月四日より開催されている通常国会では、社会福祉施設にとっては極めて大きな影響を与えると思われる議案が上程されているからです。

◎社会福祉法人の退職金制度の改定

制度に必要な財源を、

国、都道府県、社会福祉法人が、それぞれ三分の一ずつ負担して運営してきたのですが、そこから国が撤退するというものがあります。また、国が撤退すれば都道府県もその負担義務が無くなったという理由で後を追う可能性が大きいとみています。

◎社会福祉法人の制度改定

今回の法案は、社会福祉法人の①公益性・非営利性の徹底、②国民に対する説明責任、③地域社会への貢献の視点から現在の“法”の抜本的改訂により制度改革をしております。

この三つの視点に目を通す限りでは当法人においても実践を重ねてきたところであり、なにを今さらと言いたいところですが、法案の中身では特に法人の経営機関である評議委員（評議委員（監事）、理事（理事会）、監事等の役割・権限と選任の条件等について、従来と比較して詳細かつ明確化されております。

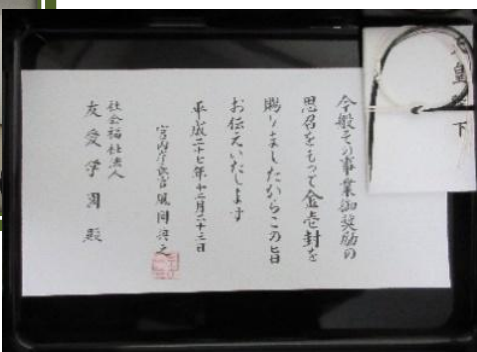
以上のような施策の背景には、高齢化社会の進行により国や自治体の財政が圧迫されるという事情があります。社会福祉の水準は下げないと言うものの、“適正化”の名の下に施策が見直されていくことは必至であると思われることです。したがって、そのことを前提にして、経営を進めなければならぬと考えます。

◎この十年間の大きな変革

来年に法人創設六十周年を迎えます。五十周年を祝ってからの十年間を振り返って見るとき、社会福祉の世界でそれまでになく大きな変革がありました。

国の施策がそれまでのものを全て否定するかの如く変革され、社会福祉事業の経営環境に大きな影響を及ぼしたからであります。発行を予定している記念誌には、この間の短い歴史をまとめ、その中から得られることを、今後の道筋を明らかにしていくための糧とすべく、具体的な作業に入りたいと考えます。

天皇陛下より御下賜金(ごかしきん)を賜りました。



この度、当法人は、天皇陛下から御下賜金を拝領する栄誉に浴しました。さる十二月十七日、その伝達式が当法人事務棟で執り行われました。大変名譽なことで、これを励みに、より多くの方の期待に応えられるよう、今後とも法人事業の発展に努めます。

御下賜金とは、十二月三日の天皇誕生日に際し、社会福祉事業御奨励のため、事業運営が優良な民間社会福祉事業施設・団体に対し、天皇陛下より金員を賜ることです。



題字 学園創始者元理事長故実川 博氏書

児童部

児童部の美化活動

地域と共に

友愛学園の敷地には、季節を飾るたくさんの木々や草花があります。児童部では年間を通じて花壇整備を行っています。多くの草花が植栽されます。

子どもたちが部屋の窓を開ければ手の届くところに花壇があり、学校との行き来する場所に花が見え、それは子どもたちを笑顔にして、子どもたちの生活を応援しているようでもあります。

草花を整備し管理するのはとても大変なことです。児童部には、職員で構成する環境美化委員会があり、住環境をはじめ、こういった園庭の美化活動なども行っています。しかし、それ以上に力を貸してください。とあるのが地域の方々です。ここ数年に渡って「児童部さんで使ってください。」と一回に二〇〇株以上の花を寄贈してくださる方がいます。これまでも、パンジー、ベゴニア、金魚草や日々草など季節に合わせた花の鉢をいただいています。その都度、花壇の植替えを行うことで、色々な変化を楽しむことができます。

そして、もう十年ほどになるかと思いますが、継続して花壇整備をしていただいているボランティアさんがあります。先に記した環境美化委員

よりも色々なことを考えて工夫を凝らした花壇づくりをしていただいており、特に子どもたちの居室から見える花壇はい



つも力をいれてきれいに飾ってくださいます。このように、地域の方々のお力添えをいただきながら、きれいな園庭の景観を保っているわけですが、是非、

学園を通りゆく地域の方々にもこの鮮やかな花々を見ていただきたくて施設の街道沿いにも花壇を作りました。多くの地域の方々から大変きれ



いだとお褒めの言葉をいただいたことがこの内容を紹介するきっかけとなりました。

また、このようなことから地域の皆様のお力添えによって子どもたちも私たちも支えられていると実感しています。

(副施設長 石川 淳)

はあとぴあ原宿

はあとぴあキッズ療育紹介

はあとぴあキッズでは、五月から十一月の季節の良い時期に『代々木ポニー公園』で、療育活動の一環としてポニーセラピーを行っています。子ども達は、自分のからだよりほかに大きく温かいポニーにさわり、背中に乗ってポニーの歩くりズムを感じます。乗せてもらったお礼に、持ってきたにんじんを食べさせてあげます。

初めは怖くて、親や職員のうしろから見ていた子ども達も、何回か体験するうちにポニーにブラッシングすることもできるようになります。ポニーは性格がとても穏やかで優しいので、子ども達だけではなく、親や引率している職員にも、心ゆたか



順番待ちのドキドキワクワク
「僕はどのポニーかな？」

な時間を与えて来ています。

子ども達も慣れてきて、「どのポニーに乗れるのかな」「誰が一番に乗るのかな」とワクワクドキドキ期待しながら、順番待ちをしています。ポニーセラピーは、子ども達がいっつの間にか魔法にでもかかったかのように大好きになり、意欲満々になり、自信と達成感のある楽しい時間となっています。

(キッズ副所長 平井眞琴)

渋谷区区長表彰の受賞



渋谷区障害者記念週間区長表彰が、十二月五日土曜日に、ケアコミュニティ・美竹の丘多目的ホールで開催され、表彰区分の自立生活者部門において、はあとぴあ原宿から入所利用者の方二名(上の写真右から中村美生様、池田雄二様)、通所利用者の方一名(下の写真左端 斉藤佳久様)が表彰されました。誠にありがとうございます。

(副所長 渡部光行)

成人部

◆高齢化への対応について

成人部では、六十歳を過ぎた利用者の方が三割ほど生活しています。友愛学園成人部のみならず、施設でも構造設備や職員配置の面で、高齢化に対する配慮が課題となっています。健康管理や機能低下に合わせた生活作りなど、より個別な支援ができるよう、チームワークの形成と運営も重要となります。

成人部の取り組みについて、三つの点から小括します。

「健康管理」

高齢になっても、作業を毎日こなし、食欲も旺盛な健康で元気な利用者の方もいます。一方で、病気になるり治療を続ける日々を送っている方もいます。

しかし、高齢になるにつれ、体調の変化が著しく変わる事は多々あります。変化に対し、早期に気が付ける様、日常生活に関する丁寧な記録を付ける事を心掛けています。

また、医療機関との連携も増えつつあります。怪我や病気の発見や対応が遅れるほど、その後の生活に大きく影響を及ぼすため、早期に通院し、状態把握に努めています。

「身体機能に応じた日中活動」

心身の機能低下により、これまで行っていた日中活動に参加できなくなることや、日常生活のさまざまな場面で移動や着替えに時間がかかってくるようになります。転倒による怪我のリスクも注意しなければなりません。

成人部生活介護では、利用者の方たち、それぞれの楽しみや生きがい

を重視しながら、無理のないプログラムに変更しています。また、介護技術向上の為、研修へ積極的に参加しています。

「構造設備」

生活の質を向上させることの一つとして、心身の状態に合った空間や設備の充実が大切となります。

成人部は、設立当初の構造から大きく変化しています。介護ベッド等、介護に必要な備品を徐々に増やしています。助成金をいただき購入した介護車両も重宝しています。



電動ベッドを導入している居室

今後、建物の構造や設備について、バリアフリー化を含め、検討を重ねていきます。

◆アートフェスタ

第二十五回 青梅宿アートフェスタ ティバル二〇一五に参加しました。

昨年まで、ゲームコーナー・作品展示販売・飲食販売の三つを行っていましたが、今回は作品展示販売のみでの参加となりました。

ブースの異動があり、青梅駅前の商店街で空き店舗になっていた場所を使わせていただきました。これは、青梅まちづくり活性化事業への取り組みのひとつとなります。

初日は、あいにくの天候で、アートフェスタ全体が静かな雰囲気でしたが、二日目はとてもおだやかな天気となり、青梅宿全体はもろろんの



オブジェ、染め物などを展示販売しました。特に染め物は、気に入ってくださった方が多くいました。欲しい物がたくさんあり、悩まれている方、毎年友愛ブースで買うことが楽しみとおっしゃられている方の姿を見ると、とても嬉しく思いました。

◆桑刈り

十二月五日、六日の二日間、多くのボランティアさんにご協力をいただき、桑刈りを実施しました。今年は、動いていると暑いほどの天候の中で行う事ができました。

今年の桑は、成長が良く、例年よりたくさんさんの収穫ができました。常連の方から、初めて参加された方まで、手際よく動い



てくださり、予定していた時間よりも早く終えることができました。成人部の利用者の方たちも張り切った作業していました。ボランティアさん、利用者の方と



関わる事を楽しまれていた様です。お昼には、カレーやおでん、肉じやがなどを用意しました。前日から仕込んだ甲斐あって、好評でした。

夕方からは、食事と飲み物を用意し、慰労会を開きました。ボランティアさん同士の話も盛り上がり、交流もより深まったことかと思えます。

事故なく無事に終えた事、ご協力くださいました皆さまに、大変感謝しております。

◆新潟・大地の芸術祭参加

世界最大規模の国際芸術祭「越後妻有トリエンナーレ」に参加している絵本作家田島清三さんの「絵本と木の実の美術館」では、和紙や流木、木の実などで彩られた作品群、空間が多くの来場者の心をとらえ魅了していました。



友愛学園工房の和紙も展示されて、高く評価されたといえるでしょう。

芸術祭の会期は二ヶ月間で、一日の来場者が五千人を超えるにぎわいとなりました。

(主任 島田健史)

十一月三日、前日までの長雨が上がり、今年も好天に恵まれ、さわやかな秋晴れのなか、学園祭が開催されました。

地域にお住まいのみなさまをはじめとし、ご来賓、利用者ご家族、市内の福祉施設・作業所関係者など、近年では最多の来場者であふれ、盛況のうちに終えることができました。

開会式では、理事長のあいさつの後、青梅市障害者福祉課長木村様、成木二丁目自治会長長野島様代理のごあいさつをいただきました。



27. 11. 3 第40回 学園祭

ステージ企画では、成人部および児童部の利用者の方々が踊りや歌、パフォーマンスが演じられました。なかでも成人部の日中活動である和太鼓グループみおんの演奏は、日頃の成果を発表する機会となりました。和太鼓は、板橋区の吉祥天鳳みのり太鼓のスタッフたちが約三年間にわたり、太鼓の醍醐味と味わいの深さをご利用者に教えてくれています。

また、ゲスト出演者による楽器演奏やロックバンドによる演奏、ウクレレの演奏など観客を魅了する熱のこもった演奏があり、毎年トリーで登場する神代太鼓は、フィナーレを飾るにふさわしい演奏でした。

模擬店では、うどんや焼きそば、ジャガバター、焼き鳥などに加えて今年はお肉まんやおでんが好評でした。多くの方にご利用いただき、売り切れ続出するにぎわいとなりました。

バザー用品の呼びかけに対して、多数の物品の提供をいただいたバザー売り場も早くから行列ができ、ほぼ完売しました。

参加団体では、今夏開設した法人のグループホームやまなみや奥多摩町の作業所のかもみーるのお店がにぎわっていました。なかま亭の五目ご飯やサンドイッチ、日本社会事業大学ポランドイッチ、イクル山の子のプリンアラモードも人気の的でした。

工房の作品展示販売では人気商品の陶器やクラフト製品、藍染め品は、そのクオリティの高さから幅広い年代の方たちにお買い求めいただきました。



太鼓グループみおんの演奏

園庭のあちらこちらのテーブルでは、ご利用者やご家族の方、来賓者の方たちが食事を取りながら、ステージ上の演奏などを楽しまれています。

学園祭にボランティアしていた方たちは約百名。学生から社会人の方たちまで多くのボランティアの参加がありました。ご協力ありがとうございました。

友愛学園祭にご協力、ご来場いただきましたみなさまに御礼申し上げます。

来年度学園祭でお会いしましょう。

(成人部施設長 山本以文)



はあとびあ祭

昨年十月十七日（土）第七回はあ
とびあ祭が開催されました。開会式
には長谷部健区長をはじめ、木村正
義区議会議長、都・区議会議員のみ
なさまにご来賓いただき、利用者の
代表による開会宣言とテープカット
で、和やかな笑顔がたくさん見られ
る中、はあとびあ祭ははじまりました。

三階のステージでは、渋谷区法人
会のご厚意で出演して下さった「風
船職人SHINO」さんの華麗なバ
ルーンアートや「ミュージックas
パレット」のコンサートが行われま
した。SHINOさんは、バルーン
アート全米大会優勝ほか、数々の大
会で賞を受賞されている日本を代表
する風船職人です。その華麗な技は
まるで手品のように風船を变身させ、



子どもから大人まで
すべての観客を魅了していました。
「ミュージックasパレット」のコ
ンサートでは、利用者の方々も一緒
になり、普段、日中活動で行ってい
る各工場の音楽療法を取り入れなが
ら、歌うことだけではなく、からだ
を動かすことで身体機能の維持や改
善をはかり、コミュニケーションを
広げている様子も発表させていた
きました。
今回も、渋谷区内の多くの団体に

出店していただきました。屋内に
販売コーナーを移した関係で、スペ
ースは、狭くなりましたが、その分
各団体の距離が縮まり、お互いの相
乗効果で、売り上げが伸びた団体が
多かったようです。

はあとびあ原宿の販売コーナーで
は、麦工場のケーキやクッキーの他
利用者の方が普段の活動で制作した
あたたかみのあるオリジナルの作品
を販売しました。手にとると自然に
笑顔になる作品をたくさんの方々
購入していただきました。

模擬店では、前回はあとびあ祭
で好評を得たはあとびあ原宿の印入
り今川焼き、通称「はあとびあ焼き」
をはじめ、定番の焼きそばやお寿司
フライドポテトやフランクフルトな
どが販売され、昼過ぎには完売して
いました。



ゲームコーナーでは輪投げとヨー
ヨー釣りがあり、どちらも大賑わい
でした。ゲームをしているよりも、
真剣な表情で景品を選んでいる方も
見られました。

はあとびあ祭の開催にあたり、渋谷
区の関係機関のみなさまをはじめ、
利用者ご家族や友愛学園法人本部の
みなさま、ボランティアのみなさま
など、多くの方々のご理解とご協力
をいただき、心から感謝いたします。
これからも皆さまに愛される地域
の祭となるよう努力していきたいと
思います。第八回はあとびあ祭でお
会いしましょう。

（副所長 渡部光行）



相談支援事業所 おおぞら

特別支援学校卒業後の進路は、企業等への就労、作業所等の利用が主です。企業就労を希望しても就労に繋がらない人や就労は希望しないが作業所等を利用したい人は、就労経験が一日もないため作業所等の就労移行支援事業や生活介護事業等を利用するのが本来のルールです。しかし、事業所数が少ないことから自治体の判断で就労継続支援B型を利用することで進路を確保してきた経過があります。

青梅市では今年度から本来のルールに戻す方針で、福祉施設連絡会で提案・検討され、就労継続支援B型利用のためのアセスメントを青梅福祉作業所と自立センターの就労移行支援事業所と自立センターの就労移行支援事業所を利用して行うことが確認されました。特別支援学校高等部卒業予定の該当者が五名、そのうち三名をおおぞらで担当しサービズ等利用計画を作成しました。途中で生活介護事業利用の内定が出た方があり、実際には二名が三日間ずつアセスメントを実施しました。来年度の実施については今後検討の予定ですが、いずれにしても障害福祉サービズ利用と計画相談は連動していきます。

(成人部副施設長 尾澤 栄子)

グループホーム

グループホームに入居している方々は、休日では思い思いに余暇を過ごしています。その過ごし方もグループホームごとに特色があります。「ども」は、絵・書道・卓球・パソコンなどの習い事を楽しんでいます。国内旅行だけでなく海外へも毎年行っています。十一月にシンガポールに行きました。

「すてつぷ小中尾」は、ガイドヘルパーさんとの外出で、温泉・映画・コンサートなどを楽しんでいます。九月にはハウス小嶺の入居者の方たちと日帰り旅行で横浜中華街と八景島シーパラダイスに行きました。「ハウス小嶺」は、月一回の外食会があり、和やかに過ごしています。また、単独での旅行もしています。

「フォレスト」も、休日ごとに自分の楽しみをみつけて外出などを楽しんでいます。夏休みには二泊三日で平泉など東北旅行をしました。

「やまなみ」は、九月に開所したばかりで、週末には自宅に帰る方が多いです。余暇の過ごし方もそれぞれですが、誕生会や季節のイベント（ハロウィン・クリスマス会等）は、みんなで飾り付けをして、食事を楽しんだり過ごしています。

(成人部主任 斉藤えり子)

青梅市 障害者就労支援センター

甚大な被害があった『東日本大震災』から、早や五年が経とうとしています。震災直後は、電話やメールが繋がらない、電車が不通になる等大混乱になりました。就労されている方においては、電車が不通になったため、会社に泊まる方・会社で送ってもらった方のほか、金曜日という事もあり、中央線や青梅線の線路を辿って帰宅した方もいました。

また、センター利用者の方の就職先も年々遠くなってきたり、町田方面や浜松町方面などと通勤時間が二時間近くかかる方も少なくありません。通勤途上の防災対策が、今後の課題と思われれます。

企業様においては、東日本大震災の教訓から、「安否確認システム」の活用、連絡網の見直し等が行われ、災害対策が進んでいます。また、地震、水害、富士山噴火対策についての「災害マニュアル」の作成や、防災備品の備蓄や避難訓練等も行われているようです。

当センターが入っている東青梅センタービルは、一階と二階が店舗等の十一施設、三階は青梅市の外郭団体や教育相談関係機関が入っています。住居ビルでは百四十三世帯が入居し、防災管理室の三人が二十四時

間体制でビル全体の防災管理を行っています。

センタービルは、阪神大震災の教訓を経て平成九年に建築されているので、補強がしっかりされています。また、水害（雨水や湧水）のためのピットがあるので、水害にも強い建物になっているそうです。

建築的にはしっかりしていますが、万が一の為に、センタービルでは消防訓練を年二回実施しています。

十二月七日に、三階の自衛消防訓練が実施され、通報・避難誘導・初期消火担当者の確認が行われました。また、実際の避難経路確認や消火器を使用した消化訓練も行いました。

ご相談される方が安心して来所できるよう、日頃からこのような訓練を定期的に実施しています。

(副主任 橋本文恵)



「放水 はじめッ！」

青梅福祉作業所

◆宿泊旅行

昨年の十一月十二(木)〜十三日(金)の一泊二日、群馬方面に旅行に行きました。

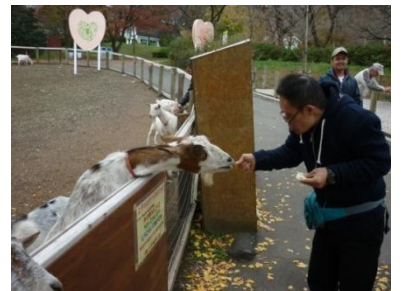
天気予報では「晴れ」だったのですが、当日は、あいにくの曇り空でした。結果としては旅行日をはさんだ前後二日間が雨だったため、奇跡の曇り空だったのです。とはいえ、晩秋の群馬の山沿いは少し寒かったです。

一日目は伊香保グリーン牧場に行きました。関東近郊の観光スポットとして有名で、遊びに行った方もいると思います。しかし、少しずつ内容が変わっているので、何度も繰り返し訪れて方も多いと思います。

今年「シーブドッグショー」が面白かったです。バラバラにえさを食べている羊たちを一匹の犬が、アツという間に集めていました。



風も吹いてきて、座って観覧していると感じたのですが、その帰り道にソフトクリームを食べる方もい



ました。青梅から移動時間が短いため、現地での過ごしすぎることができ、動物たちもたくさんふれあ

うことができました。

旅館は猿ヶ京温泉の手前にある国道十七号線沿いに建つ「太陽館」でした。こじんまりとした宿で、ほぼ貸し切り状態でしたので、お風呂も遠慮なく何回も入れました。かけ流しの温泉ですから、早朝のお風呂を楽しんでいた方も多くいました。

夕食は宴会となります。次々に温かい料理が出てきて、終わり頃に揚げたての天ぷらが出てきたときは、みなさんも驚いていました。



ベテランの利用者の方たちは、こうした宴会食に慣れていますが、二十歳前後の若い方たちは、戸惑いながらも新しい経験に目を輝か



せていました。宴会といえたらオケです。この日を待ちわびて、歌いたいくらい曲を何曲

も用意している方もいました。

演歌が上手な方、氷川きよし命の方、アニメソングにエグザエルなど、十代から六十歳代の幅広い年齢層の参加者ならではの選曲でした。アルコール類のない宴会ですが大変盛り上がりました。

二日目は月夜野びどろパークというガラス工場に立ち寄りしました。さすが作業所の利用者の方たちです。ガラス製品の製造過程を食い入るように見ている方も少なくありませんでした。

二ヶ所目は伊香保おもちゃ・人形・自動車博物館です。特に人気があったのが昭和の商店街を再現したコーナーです。昔のリカちゃん人形、メンコに駄菓子、昔懐かしいブリキのおもちや、ヒーローたちの人形が並んでいました。鉄人二十八号や仮面ライダーなどに詳しい方は、「また、お父さんとお母さんと来るツ！」と楽しそうでした。自動車コーナーでは懐かしい自動



いまは群馬名物の水沢うどんでした。コシのあるうどんに舞茸の天ぷらなど群馬の美味を堪能しました。



車や変わった形の自動車が触れることができ、自動車の詳しい利用者が得意げに解説して

利用者の方たちは、プライベートの旅行機会が少なくなっています。ガイドヘルパーなどを活用して個人旅行を楽しんでいる方たちもいますが、普段、一緒に仕事をしている仲間との旅行も格別です。最近の日常活動事業所ではみんなで旅行に行くところが少なくなると聞いています。

昭和の時代に流行った団体旅行。青梅福祉作業所の昭和遺産？です。

(所長 福田和弘)

トピックス

浜中青梅市長を新年訪問

一月五日に柘植理事長、菅井事務局長、各事業所の管理者（施設長）が青梅市役所を訪れ、浜中市長に新年のあいさつをいたしました。

当法人の青梅市における展望をお話しし、浜中市長には熱心に聞き入っていただきました。年始のお忙しいスケジュールの中、貴重な時間をいただき感謝しております。



はもとびあ作品展



第六回はあとびあ作品展『百花繚乱』を開催されました。

- ◎三月四日（金）～八日（火）
- ◎十時～十七時（最終日のみ十四時）
- ◎渋谷区文化総合センター大和田二階『ギャラリー大和田』

◆中堅職員研修報告

十一月二十七日（金）に平成二十七年年度・階層別研修の一環として、中堅職員研修が行われました。中堅職員ということで、「未来に向けて膨らみのある福祉像を培っていくこと」を目的に各事業所より将来のリーダーを期待される三年から七年目の職員を中心に実施されました。演習テーマとして「認め合い・高め合い・助け合い、そして自己発見」を掲げ、主にグループワークを中心に終日にわたって行われました。

普段は違う事業所に所属し従事しながらも、当日は同じ年代や勤続年数の職員であることから、日常の業務での悩みや情報交換など研修内容とは別にも職員同士の交流の場となっていたようです。最後に参加者からは、「自己研鑽できる良い研修だった。」と感想が聞かれ、充実した研修内容であったことが伺えました。

◆主任・副主任研修報告

十二月四日（金）に、階層別研修・主任・副主任研修が開催されました。

十一月に行われた中堅職員研修とは違い、各事業所で主任及び副主任をしている職員が対象ということもあり、現場で遭遇する支援上の迷いに關して「支援における合理的配慮」の視点から考え、さらに一般職員に的確なスーパーバイズができるようになる力を培うことを目的に実施されました。実際に参加し研修の話しを聞く職員の目は真剣に緊張感のある研修となりました。

編集後記

日本漢字能力検定協会が、一般から募集した昨年の漢字は「安」が最も多く、京都 清水寺の森 清範貫主が大きな和紙に書き上げました。

今年も、「安」の反対の意味はさまざまですが、たとえば「高い」があります。消費税が上がり、物価も上がり庶民には景気の良い見通しがありません。

たとえば「争」です。昨年の「安」という漢字には「戦争」に向かつてほしくないという願いがあります。たとえば「不安」です。心配で、気がかりで心が揺れるような思いで生活している人もいます。

私たち福祉事業者の使命は、そうした「不安」をひとつでも少なくしていくことです。経済や紛争には直接的な役割をもちませんが、悩み苦しんでいる人達に寄り添い支援していくことができます。

今年も、まだ始まったばかりです。皆さんにひとつでも多く「幸」という字が増えるためにがんばりましょう。



後援会へのご加入案内

当法人では後援会にご加入いただける方を募っています。ご協力くださる方は左記までお問い合わせください。詳しいご案内をさせていただきます。

- 目的 友愛学園の事業を後援すること
- 会費 一口 千円
- 連絡先 友愛学園 後援会事務局
- 電話 〇四二八（七四） 五四五三
- FAX 〇四二八（七四） 六九〇六

法人事業一覧

渋谷エリア

- 施設入所支援
- 生活介護
- 短期入所
- 児童発達支援
- 日中一時支援

青梅エリア

- 青梅市障害者就業・生活支援センター
- 就労支援センター
- 就労移行支援事業
- 自立訓練（生活訓練）

おぞら

- 指定一般相談支援
- 指定特定相談支援
- 障害児相談支援

成人部

- 施設入所支援
- 生活介護
- 短期入所

子ども

- 共同生活援助
- 共同生活援助（グループホーム）

